

## 令和2年度 第5回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 令和3年3月11日(木) 午後2時から3時30分まで
- 2 会 場 中央図書館 2階会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：8人(欠席4人) 傍聴人：なし  
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、  
サービス担当係長、資料担当係長、推進担当係長、仲町図書館長  
計7名
- 4 配布資料 資料は省略させていただきます。

### 5 議事等

#### (1) 報告事項

##### ① 図書館の運営状況について

- ・図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.1)

なかまちテラスティーンズ委員会で、第3回ティーンズ委員会大賞に選ばれた「きみの存在を意識する」の著者である梨屋アリエ先生とのリモートによる交流会が2月4日に行なわれた。ティーンズ委員会大賞は毎年決定し、これまでに著者からメッセージを頂いたり、編集担当者の方に来ていただいて話を聞いたりといったことを実施してきたが、著者本人と交流するのは今回が初めてであった。参加した中高生にとってとても貴重な経験になったと感じている。

音訳者講習会は、1月28日から3月末までに計7回とデジター操作講習を1回行っている。参加対象者は22名で、4月以降は中級者講習会としてレベルアップして行っていく。

例年実施しているブックリサイクルは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止している。

今後の予定として、ハンディキャップ交流会の開催を予定している。会場は中央図書館視聴覚室で感染予防のため20名に人数を限定して行う。

- ・令和2年度月別貸出状況について(資料No.2)
- ・令和2年度広域利用し別貸出状況について(資料No.3)

月別貸出数の統計は、4月から約2か月間休館していたため、前年比では大きく落ち込んでいるが、来館者数は回復傾向にある。図書館の利用にあたっては1時間以内の利用をお願いしたり、ソーシャルディスタンス確保のために閲覧席を減らす

などの感染対策を行っている。

② 3月市議会定例会について

一般質問について、図書館に関する質問が2件あった。

1件目は、竹井ようこ議員からで、視覚障害者との意思疎通の支援を拡充することについて、図書館における対面朗読サービスをオンラインで実施できないかとの質問であった。オンラインでのサービス実施はコロナ禍において、活字を読むことが困難な方に有効であると認識しているが、図書館で行っている対面朗読サービスは図書館にある本や雑誌、新聞だけでなく利用者が持っている資料や取扱説明書などもサービスの対象に含めていることから、オンラインでのデータのやり取りに課題があるため、引き続き研究、検討が必要であると答弁した。

2件目は、山田大輔議員からの質問で、ポストコロナに向けて防災・市民サービスの観点からインフラ整備について問うとのことで、具体的には、教育委員会が所管する公共施設でのフリーWi-Fiの整備の状況についての質問であった。現在は中央図書館、中央公民館、なかまちテラスの3つの施設に整備されていて、今後は小川駅西口再開発事業における公共床において導入を検討していると答弁した。

また、3月4日に予算特別委員会があり、図書館について1件質問があった。

図書消毒器の導入の検討状況についての質問で、図書消毒器は利用者本人がセルフで消毒を行なえることから、図書の利用にあたっての安心感を得られると認識しているが、令和3年度の予算には図書消毒器の購入の費用は含まれていない。図書館では本の利用の前後に手洗いと手指消毒をするよう利用者に呼びかけていると答弁した。

(報告事項についての質疑・応答)

委員：なかまちテラスティーンズ委員会で著者の方と直接交流できたことは素晴らしい取り組みと思う。今後も継続できそうなのか。

事務局：今回で3年目となるが、1年目は著者が北海道に居住しているということで直筆サインとメッセージをいただいた。2年目は著者とのスケジュールが合わなかったため、著者から直筆サインとメッセージをいただき、さらに編集担当者に来ていただいてお話を聞くことができた。今回は著者がリモートでなら参加できるということで、初めて直接交流できることとなった。今後もこのような貴重な体験ができる機会を作っていきたいと考えている。

委員：補足すると、梨屋アリエ先生はもともとYAの読書に関心のある方で、ティーンズ委員会に関わっていただいている講師の先生からの後押しもあり実現した。今回は3つの候補作品の中から投票で選ばれたが、梨屋アリエさんの作品は内容も素晴らしいものであると思う。参加した中高生のモチベーションにつ

ながるような機会を今後も作っていききたいと思う。

事務局：これまでのティーンズ委員会の活動をまとめたリーフレットを作成した。今後の活動に活かしていきたいと考えている。

委員：音訳者講習会は具体的にどんな内容なのか、また教材などはあるのか。

事務局：音訳の講師を招いて、発声、イントネーション、表現の仕方などについて学んでいる。教材は講師が用意したものを用いている。

委員：音訳ボランティアにはどのような方が登録しているのか。また、音訳者講習会は参加すべき回数が決められているのか。

事務局：音訳ボランティアについては、資格要件は特になく、活動に興味のある方が申し込んできています。伝わりやすい話し方をこの講習で習得していただき、対面朗読や録音図書作成に生かしてもらうことを目的としている。初級講習が7回、中級講習は6～7回、デイジー講習を1回予定している。基本的にはすべて参加していただくこととしている。今回参加しているのは21名であるが、応募の際は90人近くの申し込みがあったため、参加者の絞り込みを行った。

委員：ティーンズ委員会で編集者の話を聞いたと紹介があったが、著者と編集者は車の両輪であり、編集者にも実力がなくて良い作品は作れない。編集者には普段あまり光が当たらないが、講演会など企画するのも良いと思う。

委員：鈴木遺跡が国指定の文化財になるということだが、これについて図書館は何か関わりがあるのか。

事務局：中央図書館2階のギャラリーで文化財の担当と協力して展示を行う予定である。

会長：ティーンズ委員会について、今後の展開をどのように考えているか。例えば中央図書館や上宿図書館で発足させるということはどうなのか。

事務局：現時点では仲町図書館で活動していくことで考えている。今回投票という形で参加の機会を市内全域に広げていった。当面はなかまちテラスティーンズ委員会の活動をさらに充実させていくことで考えている。

委員：子ども読書月間は各館で特別展示をするようだが、毎年おこなっているのか。

事務局：コロナ禍であるので、おはなし会の開催などは難しい状況にあるが、展示を中心に行っていきたいと考えている。5月8日に「かがくあそび かみであそぼう」というイベントを予定しており、対象は小学校1～3年生だが、リモートで参加できることとしている。

委員：ティーンズ委員会を市内のあちこちの地域で発足させていくために、地域ボランティアの力を活用していくのはどうか。

事務局：相当な知識や力量のある方が必要になると思う。そのような人材がいれば考えていきたいと思う。

委員：仲町以外の地域にティーンズ委員会が広がっていかないのはなぜか。

事務局：なかまちテラスティーンズ委員会はもともと仲町公民館の事業企画委員会で提案されたことにある。その後に図書館の事業に移った経緯がある。

会長：ティーンズ委員会に参加している中高生の反応はどうか。

委員：当初は中学校と図書館で何か一緒にできないかという発想から始まった。今回作成したリーフレットを活用したり、子ども同士の口コミで小平市内にもっとティーンズ委員会が広がっていけば良いと考えている。

委員：なかまちテラスティーンズ委員会の取組みが、地域と学校の協働活動として注目されているという記事を目にした。社会教育事業の取組みの1つとして取り上げられていた。教育者の間でこのことをもっと共有できると良いと感じた。

委員：子ども読書月間について、読書ノートの配布は初めてのことか。またどのような内容か。

事務局：今回初めての取組みである。読んだ本の書名、著者名、読んだ感想、おすすめ度を5段階で記入する内容となっている。記入した「おすすめカード」を図書館に提出してもらい、それを本の帯のように展示することで考えている。

## (2) 協議事項

### ① 令和3年度小平市立図書館事業計画（案）について

図書館の事業計画は毎年策定しているものであり、昨年との主な変更点を説明する。まず、2ページの（8）図書館の機能のあり方の検討について、この1年間コロナにより図書館の利用状況が大きく変化したことを受けて、「新型コロナウイルスによる生活様式の変化を反映した方針を策定します」と追加した。図書館の機能のあり方の検討は令和2年度にまとめる予定であったが、新型コロナによる影響があったため、これを踏まえて令和3年度末まで延長してまとめていくこととした。6ページの8図書館の機能のあり方の検討についても同様である。

### ② 令和3年度図書館協議会開催日程（案）について

令和3年度は年間5回の開催を予定している。教育委員会の中の他の会議とできるだけ重ならないよう考慮し、木曜日の午後に定着している。

## 〈協議事項についての質疑・応答〉

委員：この協議会の中で提言をまとめたり、来年度の事業計画案も今回示されたが、これらの協議してきたことが、これからの図書館運営にどう反映されたかを知る機会は今後あるのか。

会長：協議会の委員の意見は事業計画や提言に反映されている。広報等をする予定はないとのことだが、図書館の動向を数年単位で見えていくことが大切であると思う。

会長：一昨年度まで年間6回であったが、次年度は年間5回に減っている。令和3年度の協議会の日程で、第3回の10月から第4回の1月までが期間が大きく空い

てしまう。なぜ1回分減ってしまったのか。

事務局：教育委員会の中の他の会議とのスケジュールの調整と予算上の問題により令和3年度は5回にせざるを得なかった。令和3年度の予算の策定にあたっては、図書費の確保、司書講習の継続、図書館の施設維持管理費等を優先せざるを得なかった面もあった。回数は増やせないが、開催の時期についてはこれから調整が可能である。

(3) その他

委員：5年前からこだいら観光まちづくり協会に関わっているが、冊子を作成したので紹介したい。

事務局：昨年企画されていた「丸ポストロゲイニング」のようなイベントに図書館もぜひ協力していきたい。

